

令和四年 年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。新型コロナ対応3年目、多くの方々からのご支援に感謝申し上げます。

医師偏在指標47位の当県は昨年4月「持続可能で質の高い医療を提供し続けるための新潟県地域医療構想の実現に向けた今後の方向性」を定めました。

大方針には、医療の質の担保と安定した経営、円滑なアクセスの確保、圏域を越えた配置、優遇措置のない民間病院の機能や意向の尊重、公立・公的病院は民間病院が担えない分野に重点化、などが示されております。

中越構想区域では、急性期3病院体制の維持、高齢化に伴い併存症を有する患者や透析通院困難事例への対応、病院ごとの厳密すぎる機能分業化への懸念、一医療機関の経営破綻が地域全体の医療崩壊につながる懸念、などが示されております。

当法人も上記状況を想定し計画的に事業を進めています。立川総合病院移転5年目の昨年4月、呼吸器外科チームに来て頂き呼吸器内科とともに念願であった呼吸器センターを開設できました。本年4月から不妊治療が保険適応となり生殖医療センターへの期待が高まります。移転後も最新の医療機器導入、各チームのスキルアップや職種間連携、新病院の強みを生かし医療の高度化・迅速化を進め、県外からも多くの医師に来て頂ける魅力ある施設を目指します。医師不足解消に少しでも貢献できればと存じます。

病院周辺は住宅地、商業地がほぼ完成、さらに建設中含め5診療所、調剤薬局、道一つを挟んで耐震大容量倉庫を有する医療機器会社、外注検査センターなどが立ち並び、まさにメディカルタウンとも言える地域が完成しつつあります。

立川総合病院南側東西道路が計画決定から45年の時を経て本年3月に全開通、長岡市の大環状道路が完成し中越地域の道路網整備の大きな節目となります。円滑なアクセスの確保、圏域を越えた連携に大いに寄与出来ます。開通後の交通量増加を見据え、四車線化への働きかけも必要と考えております。

東西道路で繋がる悠遊健康村病院は4年前から透析装置を導入、通院困難な透析患者をお引き受けしスタッフ研修も重ねてきました。この度新たな入院透析施設が完成、本年1月運用開始します。順次31台まで増やし、透析のみならずリハビリセンターを最大限活用し、患者さんの生活の質向上も目指します。

信濃川を挟み立地の異なる2病院に大型透析施設が稼働することにより、将来起こりうる大災害時のBCP（事業継続計画）にも大いに寄与できるものと考えております。

コロナ禍により社会基盤の不安定化が懸念される中、救急医療をはじめとした地域医療の質と量の堅持、医療需要変化への迅速な対応、さらに医療人育成を含めた将来への投資を着実に進めていくことが当法人に託された最大の使命であると感じております。

本年も引き続きご指導ご鞭撻のほどを切にお願い申し上げます。

医療法人立川メディカルセンター
理事長 吉井 新平